



かみがたまい

上方舞を 観にいらっしゃいませんか？

【上方舞とは…】

「上方舞」は、江戸時代、上方(京都・大阪)で生まれた日本舞踊の一種です。京都の御所等で舞われた御殿舞を発祥とし、能を元とした静的な舞に、歌舞伎や人形浄瑠璃の要素を加味して発展しました。上方舞の表現方法は、「踊ってはいけない。見せようとしてはいけない。」とされ、あくまでも能としてのたたずまいを保ち、歌舞伎舞踊より抽象的で単純化された動きをします。また伴奏は、三味線音楽の中でも一番古い伝統を持つ地唄を舞うことが主であり、そのため、「地唄舞」とも呼ばれます。地唄は、古風でゆったりと、おおらかな間合いを持ち、ひとつひとつの色あいや余韻を大切にします。その音と音との間の余情を舞うのが、「上方舞」です。

平成22年度 文教大学国文学会 冬の研究発表会



11月27日(土) 14:35-16:05 13101R

※第一部「研究発表会」終了後…

◆芸能鑑賞会◆



舞：舞踊家・吉村流師範

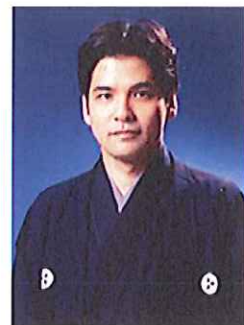
よしむら けい いん

吉村 桂充 氏

三味線：

おかむら しん た ろ う

岡村 慎太郎 氏



演目：『善知鳥』 解説：稲垣 泰一先生 **入場無料!!**

【あらすじ】※今回観て頂く『善知鳥』は、能の『善知鳥』から取ったものです。

「愛情深い母鳥が「ウトウ」と呼びかけると、巣穴から「ヤスカタ」と言って出てくる雛鳥を獵師はだまし、一瞬にして親子を引き裂いてしまう。そして因果応報のように地獄に落ち、冥界から自分の妻子に会いに来るが、現世とは逆転し、鳥によって痛めつけられ救済の手が差しのべられないことはない。人間の愚かな行動が、恵み深い自然や生物の敵となることを諷めた話」です。

(http://members.jcom.home.ne.jp/wj2m-nrmt/public_html/diary/2005-02-07.html より)

文教大学国文学会事務局

国語・日文研究室 Tel. 048-974-8811 (内線 2510・2200)

*当日の参加申し込みも可能ですが、この企画内容を紹介する「国文学会だより」が発行されていますので、ご希望の方は上記研究室までお知らせ下さい。